

令和6年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【与野西中学校】

⑥	次年度への課題と授業改善策	
知識・技能	全体的には、基礎的・基本的な知識・技能の定着が図れた。しかし、個人差が大きいことから個別に必要な支援を講じていく必要がある。個別に蓄積されたデータを効果的に活かす方法を検討していきたい。また、次年度の改善策としては、概念の必要性や意味の理解を深めるために、各教科の見方・考え方を働かせ、生徒同士が自らの考えを基に話し合う学びを全学年で重点的に取り組んでいく。	
思考・判断・表現	根拠となる部分を引用して自分の考えに説得力をもたせることに課題が見られたため、教科横断的な視点として、表やグラフの特徴や傾向を捉えて、言葉や数を用いて表現する活動に重点的に取り組んでいく。 来年度は、主体的・対話的で深い学びに向けて授業改善に取り組み、「学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合の95%以上を目指す。	

①	今年度の課題と授業改善策	
	学習上・指導上の課題	授業改善策【評価方法】
知識・技能	<学習上の課題>基礎的・基本的な知識・技能の習得状況が二極化している。特に理系の教科では差が大きく開いている。 <指導上の課題>知識・技能を習得したり、学習活動で活用したりする時間を多く取ることができていない。	⇒ 「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習に取り組む【毎授業開始時の実施】。 授業中に生徒が自らの学びを振り返る時間を設定し、次の学びに生かせるようにする。また、振り返りをふまえ、授業において、生徒とともに必要感のある課題を設定したり、生徒が主体的に課題を解決したりする場を設定する【毎授業で5分程度実施】。
思考・判断・表現	<学習上の課題>各教科の「思考・判断・表現」の記述式問題の無解答率が高い。 <指導上の課題>生徒が主体の学びや体験を多く取り入れるような授業が少ない。	⇒ 生徒が主体となり、各教科において体験的な活動を取り入れる【単元に1回程度実施】 活動の中にタブレットを用いて共同編集や話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする【R6年度さいたま市学習状況調査「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の質問項目において、肯定的な回答の割合が90%以上】。

⑤	評価(※)	授業改善策の達成状況
知識・技能	B	「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習にほぼ毎授業取り組むことができた。 「これまでの授業は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の質問項目では、R6年度さいたま市学習状況調査における肯定的な回答の割合は90%を超えた。 毎授業での計算練習を徹底し、R6年度さいたま市学習状況調査の数学の知識・技能の分野でさいたま市平均を0.4ポイント上回った。
思考・判断・表現	B	各教科において体験的な活動を毎単元に1回程度取り入れてきた。 R6年度さいたま市学習状況調査の国語・数学の「思考・判断・表現」における無解答率が、さいたま市平均より若干高くなってしまった。 R6年度さいたま市学習状況調査「授業で、学級の友達との間で話し合う活動では、話し合う内容を理解して、相手の考えを最後まで聞き、自分の考えをしっかりと伝えていると思いますか。」の質問項目において、肯定的な回答の割合は94%以上であり、さいたま市平均を上回った。

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)

②	全国学力・学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	国語の「我が国の言語文化に関する事項」の書写の領域において、平均正答率が72.7%で埼玉県と全国の平均を下回っている。ただ書くだけでなく、身の回りの多様な表現を通して文字文化の豊かさに触れ、効果的に文字を書く活動を増やしていく。 「国語の授業で話を聞いたり文章を読んだりするときに、具体的な情報と抽象的な情報との関係性を捉えて理解していますか」の項目の肯定的な回答が90%であった。子ども主体の学びとなるような授業を今後も継続していく。	
思考・判断・表現	数学の「関数」の領域において課題が見られた。関数の計算をして数値を求めるときの正答率が高いが、自分の言葉を使って説明をする問題の正答率は低く、無解答率の割合が高かった。授業でも記述していくような場面を多くとっていく必要がある。 「学級の友達との間で話し合う活動を通して自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」における、肯定的な回答の割合は約92%であることから、共同編集等、協働的な学びの機会を適宜確保しながら、自分の考えを伝えたり文章にまとめて説明したりする活動を重視したい。	

①結果分析(管理職・学年主任等)

②詳細分析(学年・教科担当)

④	さいたま市学習状況調査結果について(分析・考察)	
知識・技能	数学の数と式の計算に関する問題は改善が見られた。どの教科でも本校テストでは、概ねできていた内容でも正答率が低いものがあった。系統性でつながりのある内容について、既習を確認したり、繰り返し学習させたりして、さらなる定着を図っていく。また、知識の概念的な理解を大切にして、生徒が知識・技能を獲得していけるよう授業改善に努めていく。	
思考・判断・表現	短答式の問題で、無解答率の割合が低くなったことは、自分の考えをもたせ、学習の足跡を残す指導を積み重ねた成果であると考えている。今後も考え方を言葉で説明する活動に重きをおいていく。教科横断的に、複数の情報の中から必要な情報を見付ける活動をもとに思考力・判断力・表現力を高めていきたい。	

③	中間期報告		中間期見直し
	評価(※)	授業改善策の達成状況	授業改善策【評価方法】
知識・技能	B	「ドリルパーク」や小プリントを活用し、基本的な計算等の反復・習熟、その単元の復習にほぼ毎授業取り組むことができた。 生徒が自らの学びを振り返る時間を各教科で設定しているように学校全体で共有していく。	変更なし
思考・判断・表現	B	各教科において体験的な活動を毎単元に1回程度取り入れることはできなかったので取り組めるようにしていく。 活動の中にタブレットを用いて共同編集や話し合い活動を行い、協働的な学びを通して考えたり、表現したりすることができるようにする活動を徐々に増やすことができた。	変更なし

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一歩)